

良質なインフラや 建物・サービスの提供

鹿島は、安全・安心で快適な社会を創造するためには、本業を通じて良質なインフラや建物・サービスを確実に提供することが責務と考えています。その基盤として重要なのは「品質(Q)・安全衛生(S)・環境(E)」として、「品質・安全衛生・環境に関する方針」に則って事業を進めています。

建設プロセスとQSE

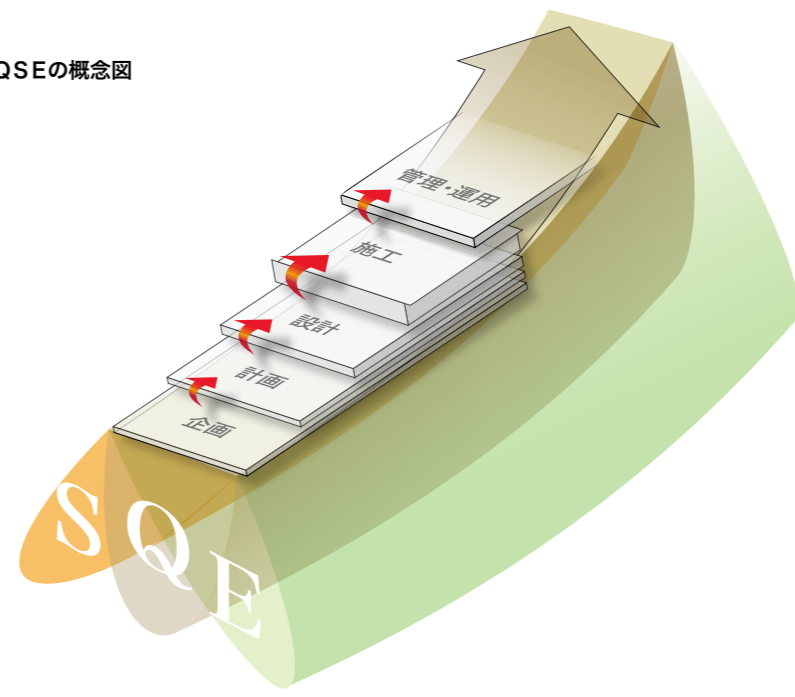
完成した建造物は、世代を超えて人々の生活や活動の場や基盤になります。その役目を終えるまでには長い年月を経るため、完成に至るまでのプロセスにはさまざまな企画や配慮が求められます。

建設のプロセスは、まず事業計画があり、施主・発注者の要望や予算を踏まえて企画が求められ、要件を満たす設計を行った上で施工段階に入ります。決められた規格に沿った資材を調達し、建設業ならではの専門工事を担う協力会社を選定し、施工計画を立てて実際の工事を進めますが、全体工程から期間、1日と時間を徐々に細分化して細かい計画を綿密に行うことが必要です。計画通りに作業が進んで、施主・発注者や設計者の合意した実物が完成して行っているかを確認しながら、施工が進んでいきます。

このようなプロセスにおいて、それぞれ品質・安全衛生・環境の3項目について検討し、さらにコスト(C)と工程(D)を加えた「QCDSE」を鹿島では社員が現場を運営する際に注視すべき5項目としています。それぞれの項目は、一つひとつが独立しているわけではなく、それぞれ相互作用が高く、いずれの観点でよい効果を生むものは相乗効果を生み、逆にどれかが不安定になると他にも影響する項目です。

施工にあたっては、計画段階で現場や本社・支店の関係部署が連携して確認し、QSEの各要素が要件を満たし、より高いレベルになるよう取り組んでいます。このように各プロセスで、次工程以降のQSEを勘案し、プロジェクト全体を通じた付加価値の向上を目指しています。

QSEの概念図



100年をつくる会社の責任

鹿島はコーポレートメッセージとして「100年をつくる会社」を標榜しています。建設に関わる建造物が世代を超えて使い続けられるものであるからこそ、それぞれが完成するまでに十分な配慮と責任を持って、プロセスを進めていくことで良質なインフラや建物・サービスを着実に提供し、社会全体の付加価値向上に寄与することが、「100年をつくる会社」の使命だと考えています。

QSEの統合マネジメントシステム

鹿島は、2003年4月にそれまで品質・安全衛生・環境各分野で運用していた方針を統合し、共通の基本方針のもと、施工部門は、土木・建築それぞれに3つのマネジメントを統合したマネジメントシステムを展開しています。これにより、各現場で総合的な生産効率の改善が総合品質の向上につながり、より高いレベルで社会や顧客のニーズに応えられると考えています。

品質・安全衛生・環境に関する方針

基本方針

品質・安全衛生・環境の確保は生産活動を支える前提条件であり、企業存続の根幹である。関係法令をはじめとする社会的な要求事項に対応できる適正で効果的なマネジメントシステムを確立・改善することにより、生産活動を効率的に推進するとともに、顧客や社会からの信頼に応える。

品質方針

顧客が安心し、信頼して注文できるよう営業活動からアフターサービスまでを含め、顧客が満足感を持てる製品及びサービスを提供する。

- 1.顧客要求事項への適切な対応と重点志向及びPDCAプロセスの徹底により、製品品質を確保する。
- 2.技術開発・改善活動を進め、品質の向上及び業務の効率化を図る。

安全衛生方針

安全は企業の能力と良心を示すバロメーターであるとの理念に基づき、管理能力の高い協力会社と連携して建設工事に伴う災害・事故の撲滅を図り、もって社会基盤整備を担う建設業の信頼確保と会社の永続的な発展を目指す。

- 1.三現主義(現場で・現物を・現実に)と現地における指差喚呼を徹底し、ヒューマンエラーによる災害・事故を防止する。
- 2.当社と協力会社のコミュニケーションを強化し、人間・機械・設備が相互に協調した安全で快適な職場環境を形成する。

環境方針

鹿島は「100年をつくる会社」として、長期的な環境ビジョンを全社で共有し、環境保全と経済活動が両立する持続可能な社会の実現を目指す。

- 1.自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、建造物のライフサイクルを考慮し、低炭素社会、資源循環社会、自然共生社会の実現を目指す。
- 2.上記取組みを支える共通の基盤として
 - ・環境の保全とその持続可能な利用に資する技術開発を推進する。
 - ・事業に関わる有害物質につき自主管理も含め予防的管理を推進する。
 - ・積極的な情報開示を含め、広く社会と連携を図る。